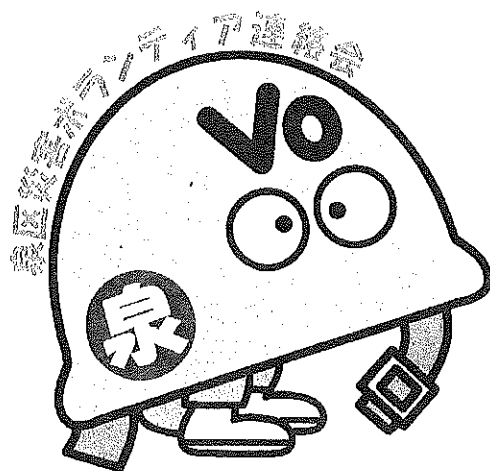


令和4年度
泉区災害ボランティア連絡会
総会 議案書



令和4年6月

令和4年度
泉区災害ボランティア連絡会 総会

次 第

議 案

- 第1号議案 令和3年度事業報告 【資料1】
- 第2号議案 令和3年度収支決算 【資料2-1】
会計監査報告 【資料2-2】
- 第3号議案 「泉区災害ボランティア連絡会」会則の改定 【資料3】
- 第4号議案 「泉区災害ボランティア連絡会」役員の改選 【資料4】
- 第5号議案 令和4年度事業計画（案） 【資料5】
- 第6号議案 令和4年度収支予算（案） 【資料6】

資 料

- ・役員名簿
- ・会員名簿
- ・災害ボランティア通信No.2101、No.2102

令和3年度 事業報告

1. 令和3年度の泉区災害ボランティア連絡会の活動を振り返って

今年度は初めから、昨年に続きの新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動が制限されました。総会をはじめ、毎月の運営委員会もオンラインで行われましたが、深谷通信隊跡地での防災フェアと、泉区社会福祉協議会職員との災害ボランティアセンターの運営シミュレーション訓練を行うことが出来ました。防災フェアでは、防災減災や災害ボランティアセンターの機能等についての啓発を行いました。シミュレーション訓練では、ボランティアの受け入れから送り出し、報告業の詳細に触れ、コロナ禍での災害ボランティアセンター運営について振り返る良い機会となりました。

その他、今年度の「静岡県 DIG※」と「神奈川県 DIG」の際には、災害時には「顔の見える関係」を広げる「連携」「つながり」を勧めています。それにより「お互いの助け合い」がスムーズにできるそうです。泉区災害ボランティア連絡会も昨年度から、連絡会の輪を広げての活動を勧めておりますが、まず連絡会の輪を強固なものにして、さらに「連携」「つながり」を勧めていく必要があります。

※DIG：正式名称を災害図上訓練といいます。参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練です。Disaster（災害）、Imagination（想像力）、Game（ゲーム）の頭文字を取っています。

2. 令和3年度 of 取組み

月/日	事業内容
5月	泉区災害ボランティア連絡会総会開催（書面表決）
6月19日	横浜災害ボランティアネットワーク会議総会へ出席
11月23日	防災・脱炭素化啓発フェアへの出展
12月	泉区災害ボランティア通信発行
1月12日	災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練実施（泉区社会福祉協議会と合同で訓練を実施）
2月22日・24日	泉わくわくプラン推進イベントでのパネル展示へ参加
3月5日	ボランティアフォーラムでのパネル展示へ参加
3月15日	横浜災害ボランティアネットワーク会議主催研修へ参加
3月	泉区災害ボランティア通信発行

◆泉区災害ボランティア連絡会運営委員会・・・毎月第1水曜日開催

※5, 6, 7, 8, 2, 3月はオンラインで開催。

※9月は新型コロナウイルス感染症の影響により、1月は訓練実施により休会。

◆横浜災害ボランティアネットワーク会議運営委員会・実行委員会・・・隔月開催

3. 情報発信

泉区災害ボランティア連絡会では、ホームページ及びFacebookを活用し、活動の様子等を情報発信しています。

<ホームページ>

URL：<http://disas.shakyo-iy.or.jp/>

二次元コード：



<Facebook>

URL：<https://www.facebook.com/izumi.saivora.net/>

二次元コード：



<災ボラ通信>

災ボラ通信 No. 2101（令和3年12月発行）、No. 2102（令和4年3月発行）

令和3年度 収支決算

令和3年4月1日～令和4年3月31日

①収入

《単位：円》

項目	本年度予算額	決算額	差引増△減	説明
1 会費	75,000	48,895	△ 26,105	団体@2,000×22団体(うち手数料605) 個人@500×11名
2 助成金	50,000	50,000	0	区社協からの助成金 @50,000
3 雑収入	3,000	0	△ 3,000	ウィークエンドスクール中止により 収入なし
4 前年度繰越金	42,011	42,011	0	
合計	170,011	140,906	△ 29,105	

②支出

《単位：円》

項目	本年度予算額	決算額	差引増△減	説明
1 事業費	25,000	0	△ 25,000	
2 通信費	10,000	470	△ 9,530	ゆうめーる代@470
3 雑費	7,000	6,760	△ 240	市災ボラネット会費@5,000 振込手数料@1,760
4 交通費	15,000	400	△ 14,600	運営委員イベント参加交通費@400
5 備品・消耗品費	80,000	90,516	10,516	非常食セット・災害用救急箱@80,440 イーゼル@10,076
6 次年度繰越金	33,011	42,760	9,749	
合計	170,011	140,906	△ 29,105	

※別途、通信運搬費（30,000円）を区社協から執行しています。

会計監査報告

泉区災害ボランティア連絡会令和3年度の会計を監査

したところ、適正かつ正確であったことを認めます。

令和4年5月12日

泉区災害ボランティア連絡会

監事 石川 敬^印

監事 國分満義^印

「泉区災害ボランティア連絡会」会則の改定

泉区災害ボランティア連絡会では「会費のハードルをなくすことにより、今後の会員の拡充を図る」ことを目的として、会費制ではなく、個人会員や団体会員のほか区民に対して協力の依頼を呼び掛ける「寄付金」の形態に変更することを検討しています。

これに伴い、以下のとおり会則の変更を提案いたします。

また、運営委員会の活性化を図るため、副代表の定数の変更を提案します。

変更内容新旧対照表

旧内容	新内容
<p>第3章 運 営 (役 員) 第5条 本会につぎの役員を置く。 (1) 代表 1名 (2) 副代表 2名 (3) 会計 1名 (4) 監事 2名</p> <p>(省略)</p> <p>第4章 会計 (会費、助成金) 第10条 本会の経費は、会員からの会費と助成金 其他をもって充てる。 2 会員の会費は年会費とし、団体・企業会員2,000円、個人会員500円とする。</p>	<p>第3章 運 営 (役 員) 第5条 本会につぎの役員を置く。 (1) 代表 1名 (2) 副代表 2名3名 (3) 会計 1名 (4) 監事 2名 【修正】</p> <p>(省略)</p> <p>第4章 会計 (<u>会費寄付金</u>、助成金) 第10条 本会の経費は、会員からの<u>会費寄付金</u>と助成金其他をもって充てる。【修正】 2 会員の会費は年会費とし、団体・企業会員2,000円、個人会員500円とする。【削除】</p>

「泉区災害ボランティア連絡会」会則 改訂（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 この会（以下、本会という）は、災害時に被災者への支援活動を積極的に行おうとする団体・企業または個人を構成員とし、平常時から交流や研鑽に努め、災害時には泉区災害ボランティアセンター運営にあたるとともに、被災者への支援活動を行うことを目的とする。

（名称）

第2条 本会の名称は、泉区災害ボランティア連絡会とする。

（事業）

第3条 本会は第1条の目的を達成するために、つぎの事業を行う。

- （1）会員相互の交流と情報交換
- （2）災害時に備え、被災者への支援活動を効果的に行うための研修、訓練
- （3）災害時の泉区災害ボランティアセンターへの協力
- （4）その他、目的達成のため必要な事業

第2章 会員

（会員）

第4条 本会は、本会の趣旨目的に賛同する団体・企業または個人の会員をもって構成する。

2 会員は、目的達成のために次の活動を行うものとする。

- （1）災害時にあっては、災害ボランティアセンターと連携し、ボランティアの受入れと被災地・者と調整
- （2）平常時にあっては、連絡会加盟団体間の交流と防災意識啓発のための活動への協力

3 会員は、本会の趣旨目的に反する行為をした場合、会員資格を喪失する。

第3章 運営

（役員）

第5条 本会につぎの役員を置く。

- （1）代表 1名
- （2）副代表 ~~2名~~ 3名
- （3）会計 1名
- （4）監事 2名

(5) 運営委員 若干名

(役員を選任と任務)

第6条 役員は、総会において選任する。

- 2 代表は、本会を代表し、会務を統括する。
- 3 副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるときはその職務を代行する。
- 4 会計は、本会の経理を担当する。
- 5 監事は、本会の事業及び経理について監査を行う。
- 6 運営委員は、運営委員会に参画する。
- 7 役員任期は2年とし再任を妨げない、任期中途の退任により補充された役員任期は、残余の期間とする。

役員任期終了後であっても、後任が選任されるまでは継続して役員任務を担うものとする。

(総会)

第7条 本会の活動は、会員により組織する総会において決定する。

- 2 総会は、代表が召集し、議長を務める。
- 3 総会は会員の過半数以上の出席により成立し、議事は、出席会員の過半数の同意により決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(運営委員会)

第8条 本会の円滑な運営のため、運営委員会を設ける。

- 2 運営委員会は、第5条に定める役員のうち(2)号から(5)号までの役員により構成し、運営委員長には副代表の1人をあてる。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、社会福祉法人横浜市泉区社会福祉協議会に置く。

第4章 会計

(会費、寄付金、助成金)

第10条 本会の経費は、~~会員からの会費~~寄付金と助成金その他をもって充てる。

- ~~2 会員の会費は年会費とし、団体・企業会員2,000円、個人会員500円とする。~~

(会計)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

- 2 本会の代表は、年度終了後速やかに決算報告書を作成し、監事による監査を受けて総会へ報告しなければならない。

- 3 本会の会計事務は、社会福祉法人横浜市泉区社会福祉協議会経理規程に準じて行うものとする。

第5章 その他

(会則の変更)

第12条 会則を変更しようとするときは、第7条の規定にかかわらず、総会において出席会員の2/3以上の同意を必要とする。

(委任)

第13条 この会則に定めがない事項は、運営委員会において協議のうえ、代表が定める。

附 則

(施行期日)

この会則は、平成19年12月2日から施行する。

附 則

(施行期日)

この会則は、令和2年6月29日から施行する。

附 則

(施行期日)

この会則は、令和4年 月 日から施行する。

(経過措置)

- 1 会則第6条第7項による規定にかかわらず、最初の役員任期は平成21年3月31日までとする。
- 2 会則第11条による規定にかかわらず、初年度の会計年度は、設立總會の日から平成20年3月31日までとする。

2 令和4年度における事業の推進

災害ボランティア連絡会の役割と機能を踏まえ、令和4年度は以下のとおり事業に取り組みます。

(1) 関係機関との連携強化

平常時の啓発活動を進めるために、関係団体及び区災害対策本部との連携強化を推進します。また、横浜災害ボランティアネットワーク会議運営委員会・実行委員会に参加し、他区との連携に努めます。

(2) 防災意識の啓発

区民祭り、防災フェア、区社会福祉協議会事業等の機会を活用し、防災意識の啓発に努めます。

(3) 会員の拡充

会費制度を見直し、連絡会の目的を多くの区民と共有することにより、会員の拡充を目指します。

(4) 啓発物品の整備

啓発活動に必要な物品の整備を行います。

(5) 災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の実施

発災時を想定し、スムーズに災害ボランティアセンターを立ち上げることができるよう、区社協と共同で立ち上げ訓練を実施します。

(6) ICT化の推進

市および区社会福祉協議会が構築するwebを用いた災害ボランティア登録システムに参加するなど、ICT化の推進に努めます。

(7) 開かれた会の運営

定期的に運営委員会を開催し、適正な会の運営に努めます。

令和4年度 収支予算（案）

①収入

《単位：円》

項 目	本年度予算額	前年度予算額	差引増△減	説明
1 寄付金	20,000	0	20,000	
2 会費	0	75,000	△ 75,000	
3 助成金	50,000	50,000	0	区社協助成金@50,000
4 雑収入	3,000	3,000	0	預金利子等
5 前年度繰越金	42,760	42,011	749	
合計	115,760	170,011	△ 54,251	

②支出

《単位：円》

項 目	本年度予算額	前年度予算額	差引増△減	説明
1 事業費	25,000	25,000	0	啓発イベントに伴う経費
2 通信費	10,000	10,000	0	災ボラ通信等ゆうメール
3 雑費	7,000	7,000	0	市災ボラ会費、振込み手数料等
4 交通費	15,000	15,000	0	役員研修参加費
5 備品・消耗品費	30,000	80,000	△ 50,000	物品購入費等
6 次年度繰越金	28,760	33,011	△ 4,251	
合計	115,760	170,011	△ 54,251	

※別途、通信運搬費（30,000円）を区社協から執行します。

令和4年度 泉区災害ボランティア連絡会事業計画（案）

1 災害ボランティア活動のためのネットワークの充実に向けて

泉区においては、発災時に区災害対策本部の要請を受けて、泉区社会福祉協議会が「災害ボランティアセンター」を立ち上げます。このセンターには、多くのニーズが集まると同時に、多くの救援ボランティアを受け入れ、ニーズと救援ボランティアをマッチングし、被災者支援にあたっていく役割を担います。

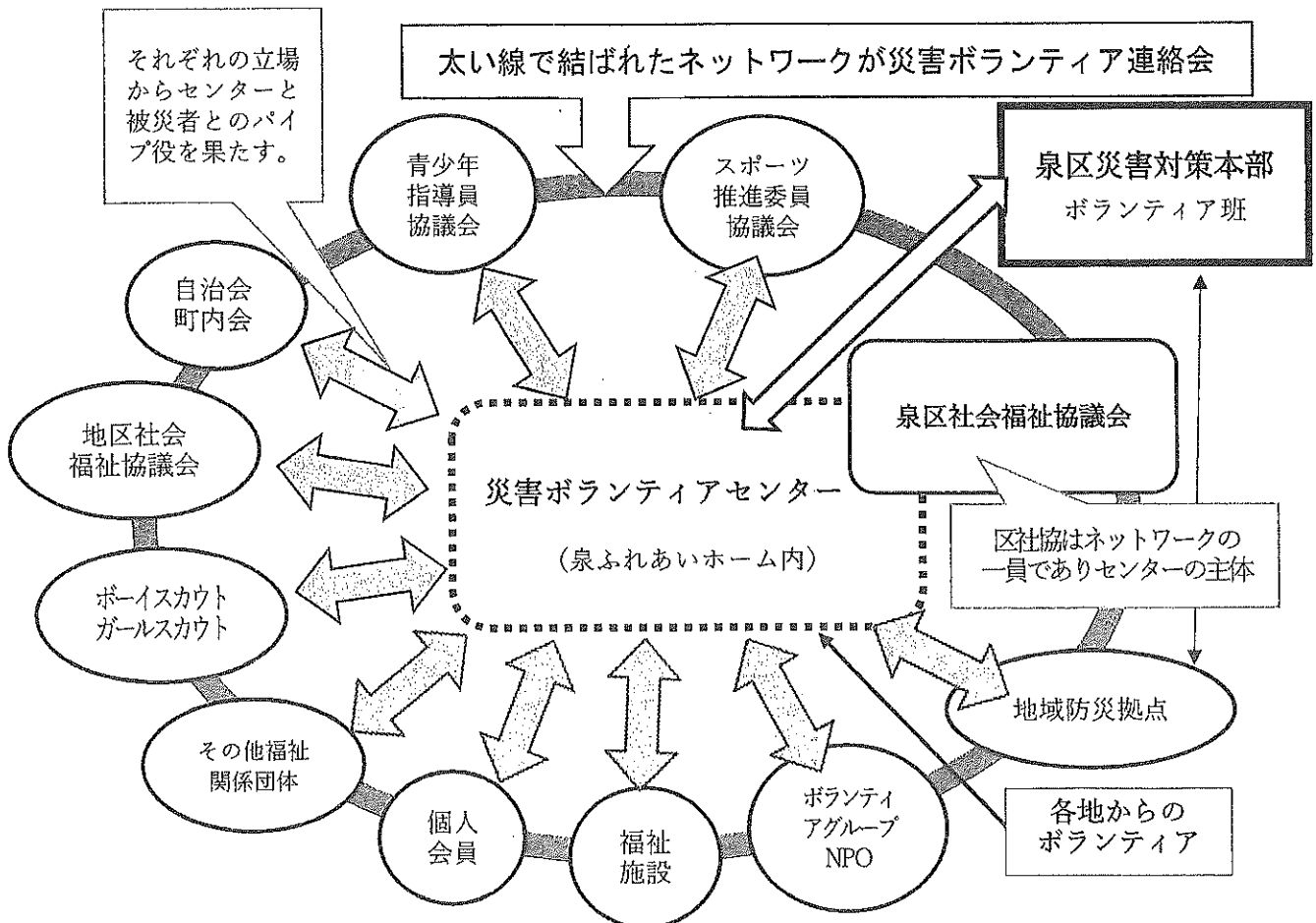
センターの運営を担うのは、泉区社会福祉協議会が中心に行いますが、「泉区災害ボランティア連絡会」は、災害時に救援ボランティアが動きやすい環境を作ることを役割として結成されています。（下図のとおり）

そのためにこの連絡会には、さまざまな団体・組織や個人に加盟していただき、それぞれの役割と独自の方法で力を発揮する強いネットワークを形成しています。

連絡会では、平常時には、防災減災に関する情報交換や広報活動、その他、訓練や資機材資金の整備検討に取組みます。また、災害時には、被災地・者と災害ボランティアセンターとのパイプ役を果たし、ボランティアの受け入れや被災情報及び生活情報の収集発信等に取り組めます。

この活動を継続し充実にさせていくには、平常時から泉区災害ボランティア連絡会のネットワークを充実・強化していく必要があります。

＜ 泉区災害ボランティア連絡会 ネットワーク図 ＞



会員名簿

1 団体会員

1	泉区社会福祉協議会
2	特別養護老人ホーム 天王森の郷
3	アズハイム横浜いずみ中央
4	緑園地区社会福祉協議会
5	新橋地区社会福祉協議会
6	和泉中央地区社会福祉協議会
7	上飯田団地地区社会福祉協議会
8	中田地区社会福祉協議会
9	上飯田連合自治会
10	ひなた山第二自治会
11	泉地域活動ホーム かがやき
12	泉区精神障害者家族会「いずみ会」
13	泉区ボランティアネットワーク
14	泉区赤十字防災ボランティアQQの会
15	泉区スポーツ推進委員連絡協議会
16	泉区青少年指導員協議会
17	多文化まちづくり工房
18	泉警察署スーパー等防犯連絡会
19	日本ボーイスカウト神奈川連盟横浜第31団
20	ガールスカウト日本連盟 神奈川県第100団
21	(宗)密藏院
22	上飯田小学校地域防災拠点運営委員会
23	いずみ野中学校地域防災拠点運営委員会
24	緑園学園地域防災拠点運営委員会
25	新橋小学校地域防災拠点運営委員会
26	岡津小学校地域防災拠点運営委員会
27	西が岡小学校地域防災拠点運営委員会
28	領家中学校地域防災拠点運営委員会
29	中田小学校地域防災拠点運営委員会

2 個人会員 23名



泉区災害ボランティア通信 No.2101

令和3年12月発行

泉区内の地域防災拠点の紹介

★中田小学校地域防災拠点

運営委員長 樋口 輝正

中田小学校地域防災拠点は10町内・自治会の拠点運営委員会委員45名で運営しています。本地域に居住する所帯は約2700所帯7000名であり、泉区の大地震(南海トラフ)災害想定では、240戸の建屋が半壊、970名の被災者が想定されています。また地下鉄中田駅が近いため、発災時は通勤・買い物等その他一般の避難者の受け入れも予想されます。新型コロナウイルス感染症対応として、拠点では、可能な限り在宅避難を前提とした各自治会・町内会と情報連絡体制の強化を令和3年度の活動方針としています。

令和3年度は、拠点マニュアルの検討や、ペット小屋の整備、防災倉庫の備品機能点検等を実施しました。12月5日(日)には、拠点防災訓練を実施し、拠点開設・通報連絡・コロナ禍での避難者受入れの対応を確認する予定です。



中田小学校防災拠点倉庫



同行避難ペット一時飼育場所
整備・開設(9月3日)



拠点委員識別ベスト作成
防災デジタル無線を
全一時避難場所へ配布

★和泉小学校地域防災拠点

運営委員長 黒川 清志

和泉小学校における防災訓練は、和泉中央連合自治会16自治会・町内会のうち8自治会・町内会が参加して、毎年実施しています。令和元年度・令和2年度と通常の形態での訓練が実施できなかったため、今回は平成30年度に実施した際の様子について報告します。

○参加人員

小学校生徒の参加	生徒ご家族の参加	各町内会の参加	計
339名	271名	98名	708名

ご家族の参加271名も町会員のため、計369名が町内会からの参加者となります。上記以外の運営委員(小学校教職員・区役所職員・消防署員・ボランティア等)は計約100名参加となり、総員で約800名強の参加となりました。

小学生の参加者は、各町内会から小学校へ徒歩で集まる避難訓練にご家族と一緒に参加しました。上級生(5・6年生)は、一般参加者と同じ訓練に参加し、炊き出しと料理(おにぎり・豚汁)作りにも参加しました。訓練の最後には“防災クイズ”を実施し、参加者の啓蒙活動につなげることができました。

今後は、令和3年12月17日(土)に運営委員会を実施し、令和4年1月15日(土)の訓練内容について決定する予定です。

泉区災害ボランティア連絡会の活動紹介

災害ボランティアセンター運営は、コロナ禍でデジタル化進展

災害ボランティアセンターの運営は、今年大きな被害を受けた静岡県、広島県、佐賀県の事例を見ても、コロナ禍により大きく変化しています。例えば、WEB会議が常識となり、ニーズ管理などはデジタルで情報を共有し、オリエンテーションも動画を活用するなど効率的なセンター運営となりつつあります。新型コロナウイルス(以下「コロナ」)が去っても、こうしたデジタルを導入した運営方法は活用されると考えられます。

他都市の事例として、コロナの影響を受ける前には、当日になるまで何人のボランティアが来るのか分からず、全国から1日に3,000人を超えるボランティアが来ることもありました。その対応は、全て書面で行ってきました。しかし、現在は感染症対策のため、ボランティアは地域住民限定へと変わり、運営スタッフも他地域からの応援は期待出来なくなりました。そのため、センター運営は、より効率的にせざるを得なくなり、ボランティアの事前予約や当日受付で配られる二次元コードの活用、また、運営面のクラウド化とWEB会議活用による情報の共有化を行うなど、全般的なデジタル化による運営が定着してきました。泉区でも、災害ボランティア連絡会と泉区社会福祉協議会がともにICTに関する勉強を進めています。【運営委員 江尻】

泉区防災フェアに出展しました！

「泉区防災フェア」が11月23日(火・祝)深谷通信所跡地で行われ、泉区災害ボランティア連絡会が出展しました。昨年はコロナの影響で中止となりましたが、今年は感染症対策を行い、体験型のブースではなく、見て学べる展示を行いました。当日は警察や消防署など多くの団体が出展しました。災害ボランティア連絡会のブースでは、パネルや防災グッズの展示、非常食の配布などを行い、多くの来場者で賑わいました。来場者からは、「災害ボランティアは聞いたことがあるが、センターについては知らなかった」といった声が聞かれ、防災、減災への関心が広がりました。【事務局 丸山】



当日のブースの様子

泉区災害ボランティア連絡会 運営委員を募集しています！

泉区災害ボランティア連絡会には、連絡会の取り組みについて検討する運営委員会が組織されています。平常時の取り組みは、訓練や勉強会の実施、区内外との情報共有、区民への啓発活動などを行っています。現在、連絡会の活動推進のために運営委員として一緒にご協力いただける方を募集しております。運営委員会は、毎月第1水曜日の午後を実施しており、ご関心のある方は見学も可能です。詳しくは、下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。【事務局 丸山】

【泉区災害ボランティア連絡会 (横浜市泉区社会福祉協議会内)】

ホームページ : <http://disas.shakyo-iy.or.jp>

Facebook : <http://www.facebook.com/izumi.saivora.net/>

【事務局】

〒245-0023 横浜市泉区和泉中央南5丁目4番13号

TEL : 045-802-2150 FAX : 045-804-6042

メール : normalize@shakyo-iy.or.jp

HP



FB



会員 募集！
参加頂ける方は
事務局まで
ご連絡ください



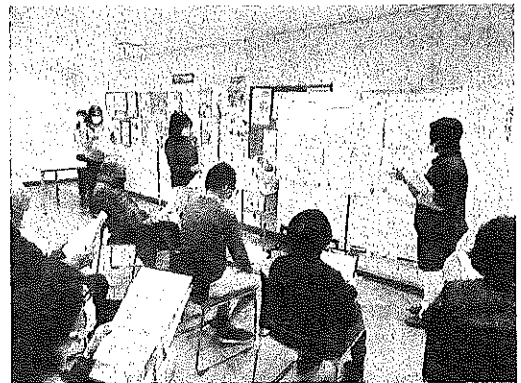
泉区災害ボランティア通信 No.2102

令和4年3月発行

災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練を実施

1月12日(水)、災害ボランティア連絡会、泉区社会福祉協議会の合同による災害ボランティアセンター(以下センター)運営シミュレーション訓練を泉ふれあいホームで実施しました。当日は、連絡会運営委員と泉区社会福祉協議会職員の合計21名が参加しました。

今回の訓練は、センターが立ち上がった際、センター内におけるスタッフや災害ボランティアの基本的な動きについて、改めて確認することを目的に実施しました。参加者は2グループに分かれ、それぞれスタッフ役・ボランティア役に扮して、ボランティアの受付から活動後の報告まで



スタッフから説明を受けるボランティア



派遣要請内容に耳をかたむけるボランティア

の一連の流れを体験しました。訓練の後には、コロナ禍でのセンター運営において配慮や工夫が必要な点について意見を出し合い、「スタッフ・ボランティアともにコロナ感染を予防するために、センター内で動線が交わらないようにする工夫やアクリル板・フェイスシールド等基本的な対策用品の活用が必要」、「コロナ対策の観点からもICTの活用は重要だが、アナログの方法でも対応できるようにする必要があるのではないか」等の課題が挙げられました。

今後も訓練を実施しながら、新しい生活様式に合ったセンター運営の方法を検討していきます。

災害時対応におけるICTの活用のこれから

横浜市社会福祉協議会では、ICTの活用による災害時対応を目指して、サイボウズ株式会社と協定を締結しました。今後市域で、災害ボランティアセンター運営をはじめとした、災害時に活用する情報共有システム等の構築が進みます。災害ボランティア連絡会では、こうした市域の動向にも目を向けていきます。

◆具体的にICTの活用によってどんなことができるようになる？

○災害ボランティア希望者の登録・管理 ○寄付の受付およびその管理 ○復興支援を見据えた被災者からのニーズ等相談記録の管理 ○ホームページ・SNSを活用した情報発信

○社会福祉協議会所有の災害備蓄物資の共同管理・活用

⇒ICTの活用により、これまで紙の資料を用い職員の手作業で行っていた業務をデジタル化できる

⇒それにより、データの管理や活用が容易になり、事務作業の軽減・効率化を図ることができる

令和3年度の泉区災害ボランティア連絡会を振り返って

今年度は、昨年同様新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面での活動が制限されました。総会をはじめ、月々の運営委員会も書面開催やオンラインにより行われましたが、深谷通信隊跡地での防災フェアとコロナ禍により延期をしていた泉区社会福祉協議会職員との災害ボランティアセンター運営シミュレーション訓練は行うことが出来ました。

今年度の「静岡県 DIG」と「神奈川県 DIG」では、災害時には「顔の見える関係」を広げる「連携」、「つながり」を進めています。これにより「お互いの助け合い」がスムーズになります。泉区災害ボランティア連絡会では、連絡会のネットワークの拡充を目的とした活動も進めています。まず連絡会のネットワークの強化を意識して、さらに「連携」「つながり」を進めていく必要があるのではないかと感じました。これからもよろしくお願いします。【乾 英昭】

泉区内の地域防災拠点の紹介

★領家中学校地域防災拠点

運営委員長 萩原 勝彦

領家中学校地域防災拠点では、阪神・淡路大震災を教訓に、いざという時に備えた地域防災拠点参集訓練を毎年1月に行っています。また、年6回の地域防災拠点運営委員会を開催し、地域住民に防災意識の向上を図っています。

そして、毎年7月には、備蓄庫内の整理整頓や資機材の点検及び取扱訓練等を行い、誰もが何時でも非常時に備えて機材の取扱が出来るように訓練も行っています。

今年の拠点参集訓練では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、体温、手指の消毒、マスクの着用をして、各セクションに分かれて資機材取扱リーダーが訓練の指導を行いました。

訓練内容は、(1)一時避難場所から領家中学校地域防災拠点への参集訓練、(2)地域防災拠点開設訓練、(3)生活基盤の形成訓練(①避難所生活訓練・簡易トイレ取扱訓練、②はまっトイレ組み立て訓練、③発電機・エンジンカッター取扱訓練、④炊き出し釜の機材取扱訓練)を実施しました。今年度の訓練は総勢243名の参加がありました。



地域住民と実施した訓練の様子

【泉区災害ボランティア連絡会（横浜市泉区社会福祉協議会内）】

ホームページ：<http://disas.shakyo-iy.or.jp>

Facebook：<http://www.facebook.com/izumi.saivora.net/>

【事務局】

〒245-0023 横浜市泉区和泉中央南5丁目4番13号

TEL：045-802-2150 FAX：045-804-6042

メール：normalize@shakyo-iy.or.jp

HP



FB



会員 募集！
参加頂ける方は
事務局まで
ご連絡ください